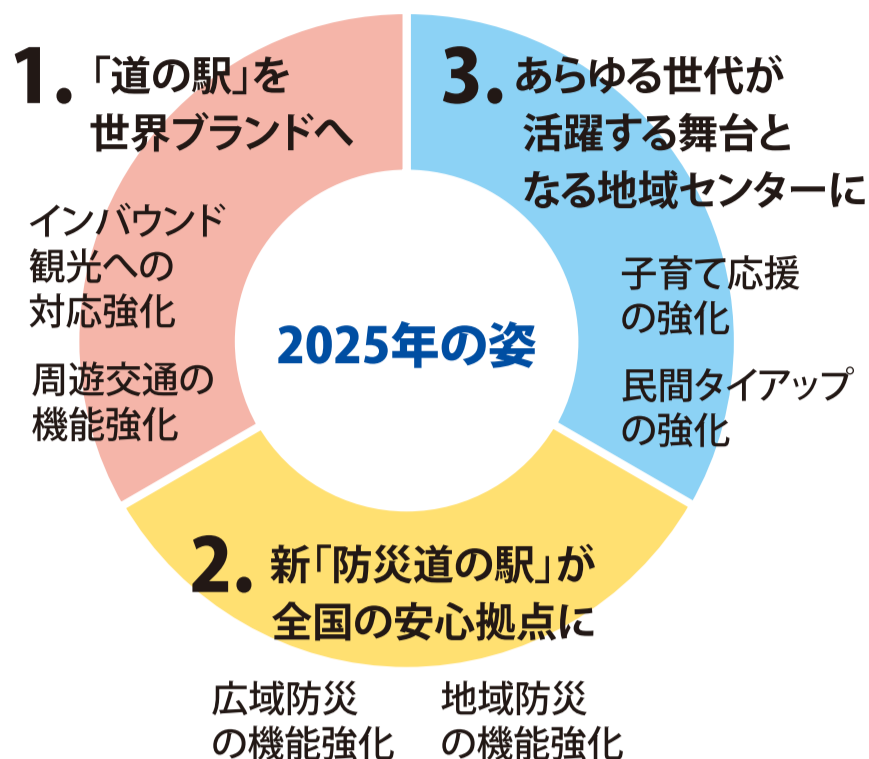


道の駅ってどんなところ？



第3ステージの概要



出典：国土交通省HP 道の駅案内 (<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/>)

「道の駅」は第3ステージに

1993年4月に103箇所だった道の駅は全国に展開され、2020年7月には1,180箇所に。

全国展開された道の駅の役割は、1993年から始まった第1ステージでは「通過する道路利用者のサービス提供の場」、2013年からの第2ステージでは「道の駅自体が目的地」と時と共に進化してきましたが、訪日外国人観光客への対応、頻発化・激甚化する災害への対応や少子高齢化社会への対応など、今後の課題も残されています。

国土交通省では2020年～2025年を第3ステージと位置づけ、『地方創生・観光を加速する拠点』づくりを推進するとともに、道の駅同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることにより、新たな魅力を持つ地域づくりへの貢献を目指しています。

また、国土交通省では2025年に目指す道の駅の3つの姿として、『道の駅を世界ブランドへ』『新防災道の駅が全国の安心拠点に』『あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに』と掲げ、多言語対応、キャッシュレスの導入及び新たな防災道の駅認定制度の導入など様々な取り組みを推進しています。

道の駅八王子滝山では、学生の職場体験、社会科見学やゼミ研究を受け入れているほか、郷土芸能やミニコンサート、体験教室を協働開催するなど、あらゆる世代、団体の活躍を支援しています。

畑の人 石川 稔さん

良質な水環境に恵まれ、「八王子八十八景」に選ばれている都内最大規模の田園風景が広がる、八王子市高月町にある「石川農園」を訪ねました。

脱サラして就農した石川さん(47才)。

「農家で育ったわけではないので、3～4年目は思考錯誤の連続でした。

そのような折、JAを通じた研修を2年間受講し、参加している方々の意識や意見交換が刺激となり、自分自身どのような農業を行うべきかビジョンが見えてきました」

道の駅でも人気の石川さんが出荷している野菜。その人気の訳を聞きました。

「目指しているのは、天候に左右されず高い品質の野菜を恒常的にお客様にお届けする事。そのために収穫に合わせて逆算して計画していき、その時期に合った旬の農作物を、適正な時期に・適正なタイミングで種を蒔き、選別しながらより新鮮で美味しい野菜を出荷するように心掛けています」

緻密に計画・管理・実行されている石川さんの信念が感じられる言葉です。

「農家は個人事業主なので1人で仕事をしているように見られると思いますが、就農してみて如何に仲間が大切な存在であるか改めて気づきました。ひとつの思いで繋がっている仲間には深く感謝しています。新鮮な美味しい農作物をこれからも作り続け、ファンを増やしていきたいです。新鮮なにんじんは本当に甘いので、野菜スティックや温野菜等シンプルに食べてみて下さい」

真摯に野菜作りに向き合う石川さん。道の駅で石川さんを見かけたら、是非お声をかけて下さい。



お店の人 金子キミ代さん ミルクアイス「MO-MO」

「いらっしゃいませ!」

週末ともなると行列が絶えない人気店ミルクアイスMO-MOから、元気なキミ代さんの声が聞こえます。

道の駅八王子滝山が開駅して以来、その人気は衰えることがありません。

「お客様に美味しさをお届けする為には、何より作り立てをその場で食べて頂くのが一番。その日に売れる量を予測して、売り切れる量を出来立てでつくります。やはり何より嬉しいことは、お客様の『美味しい!』の一言」

笑顔を決やさないキミ代さんですが、ここに至るまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。

酪農を始めたのは夫、金子文利さんの代からですが、キミ代さんには、いつかうちの牛乳を使ってアイスを作りたいという夢がありました。

酪農の仕事の傍ら、畑で採れた野菜を売りながら夢を叶えるため、コツコツと貯蓄を続けました。そしていよいよ念願の道の駅に出店。出店が決まってからは、名のあるジェラート店を訪ねては美味しさの秘訣を学ぶ毎日が続きました。

「牛乳は自家製、季節のメニュー、栗・とうもろこし・かぼちゃやキウイ・ラズベリー等、自分の畑から収穫された物を極力使っています」

キミ代さんの言葉からは、ジェラートへの強い自信と誇りが感じられます。

「当初は頼れる人も少なく目が回るような忙しさでしたが、今では安心して仕事を任せられるスタッフの皆が店を切り盛りしてくれていて本当に助かっています」

ミルクアイスMO-MOのジェラートは勿論ですが、ソフトクリームのお味も評判をよんでいます。

「道の駅ひんやりスイーツ総選挙2020」で「カネコミルクスペシャルソフトクリーム」が関東第1位を獲得。

自家製の牛乳と、フレッシュな味わいへのキミ代さんのこだわりが評価された証といえるでしょう。



金子牧場では乳牛約50頭飼育しています

道の駅仲間 道の駅上田 道と川の駅 おとぎの里

防災拠点として地域に貢献

2019年(令和元年)10月に甚大な被害をもたらした台風19号。とりわけ記録的な大雨の影響で河川が氾濫した長野県の被災状況は、各マスコミにも大々的に取り上げられ記憶に残っている方も多いと思います。

長野県上田市に位置し、千曲川、浦野川の自然環境を活かした親水空間である「川の駅」と「道の駅」が一体となった全国で初めての施設となる「道の駅上田 道と川の駅おとぎの里」も暴風と豪雨により浸水し、親水空間では壊滅的な被害を受けました。それでも防災拠点としての機能を発揮し、避難所となった市内の中学校及びコミュニティー施設「創造館」にはカレーライス450食、長野大学には馬肉うどんを450食ほどを提供するなど、支援要請への迅速な対応で地域に貢献しました。

速やかな対応について、代表世話人である石井孝二さんにお話を伺いました。「この施設はヘリポートを有する防災拠点。日頃より安全・安心イベントを開催してきたとともに、何よりも良き仲間がいるから」と、語ってくれました。

安全・安心イベントでは、防災シミュレーションクイズや炊き出し訓練のほか、ヘリコプターに乗って地域を視察するなど、「いざ」という時の為に様々な活動を行ってきました。

おとぎの里は、地域振興の拠点づくりの研究会がもととなり、地域住民、行政、学校や地域団体の皆さんと共に考え、共に行動し、「地域の魅力アップ」や「地域の環境活動」など様々な課題に取り組みながら現在に至っています。

自治会を主とした「安全・安心部会」、各種の地域団体等からなる「ふるさと部会」、大学の教授等からなる「てらこや部会」、営業部門担当の「あきない部会」、道の駅事務局となる「総務部会」、地域情報を発信する「交流・観光部会」の6つの部会で道の駅が構成されています。「地域・自分のまちを良くする」という志をとる数多くの仲間が道の駅事業に参画し、日頃の活動を通した備えがあったからこそ、非常時でも迅速な対応ができたといえます。

ちなみに道の駅に甚大な被害が生じた10月12・13日には、「信州上田乗来乗座交流マルシェ」を開催する予定でしたが、当然のことながら中止に。急速、災害協力活動に切り替え、イベント出展者も道の駅の通常営業強化に尽力しました。

台風19号の被害の爪痕も今は消え、ウォーキングコースや芝生広場を散策したり、ドッグランで愛犬と戯れる多くの方々に賑わいを見せています。



避難所での炊き出し作業



大学生との協働作業



【ミルクアイス MO-MO】

営業時間:10:00～18:00(第2・4水曜日定休) TEL 042-692-1675

【道の駅上田】

長野県上田市小泉字塩田川原 2575 番地 2
TEL 0268-75-0587 <https://www.otoginosato.jp/>